

編集後記

昭和57年（1982）10月に第1号の刊行をみた「研究連絡誌」も、平成13年（2001）3月、20年の経過の中で60号の刊行を重ねることが出来た。ページ数も全体で1,538頁になり、この間、累計で105名の技術職員が194編の論考等を寄稿したことになる。

きわめて概数的な把握であるが、寄稿したものをその内容で分類すると、調査法13編、資料紹介52編、事業報告21編、論考64編、当センター調査に係る遺跡紹介21編、遺構紹介14編、学会参加記1編、以上に含まれないもの8編であった。

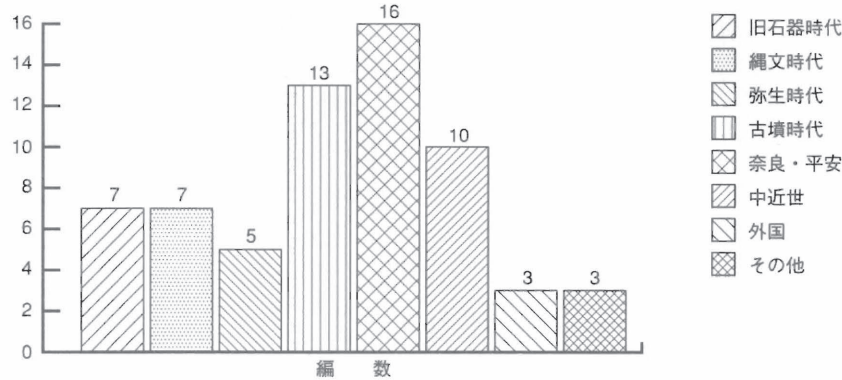
調査法に係るものは、発掘遺跡での新しい試みや旧石器時代の層位区分に係る内容等であり、資料紹介では調査遺跡の周辺で確認された遺物の紹介などを含んでいる。事業報告はセンターの保存処理等の業務報告などであり、遺跡紹介や遺構紹介は調査遺跡の速報的報告という内容であった。

次に論考64編は、各時代おしなべて論述されている。調査例の多い古墳時代、奈良・平安時代が投稿数として多いのは当然のことと思われる（図参照）。総掲載数の約三分の一が論考ということは「研究紀要」との兼合いもあるが技術職員の健闘の結果ということが言えるのではないだろうか。

この「研究連絡誌」は、文化財センターの技術職員の調査研究成果を発表する場として「研究紀要」とともに担うものである。発刊以来多くの方々より高い評価を得ており、文献等で引用されることも多くなっている。

本誌は特定のテーマ設定は行わず、技術職員の学問的交流を主な目的としているが、今後とも職員の研鑽を重ねる場として、あるいは遺跡調査の速報的内容を含ませた上で、センター研究事業の一翼を担っていくことを使命としたい。

論考64編の時代区分



研究連絡誌 第61号

平成13年12月27日 発行

発行者 財団法人 千葉県文化財センター
〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2
電話 (043) 422-8811

印刷所 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町1-10-6
電話 (043) 233-2235